観光デザイン

第二号

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS
学校法人 大覚寺学園
京都嵯峨芸術大学
http://www.kyoto-saga.ac.jp

発行
芸術学部
観光デザイン学科
〒616-8362
京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7858(代)
FAX.075-881-7133

学科についてのご質問等、お気軽にお問合せください。

卒業生特集号
「社会で観光デザイナー活躍！」
いろいろな分野に挑戦する卒業生を紹介いたします。

社会で「観光デザイナー」活躍！

研究資料をもとにイメージして描いた菅原道真（右）と土蜘蛛（左）

卒業制作で制作した「魔都京都の文化財　魔界遺産」の表紙。

© Junya Kouno

観光デザイン学科は何をしている学科なのか？あまりピンと来ない学科である。そんな観光デザイン学科のことを徐々に知ってもらうために創刊されたのがこの「観光デザイン」である。観光デザイン学科は自然・文化・都市・人間と様々な要素が絡み合う地域や社会の問題にデザインからアプローチ。三つの学問領域を横断的に学ぶことで、情報収集から企画立案、デザイン制作、プレゼンテーションといった「社会の現場」が求める技能と感性、そして「観光デザイン力」を身につける学科である。

そこで、今回は観光デザイン学科を卒業し、社会で活躍する先輩たちの仕事ぶりを紹介したい。まず初めに紹介するのは、観光デザイン学科第一期卒業生の「観光デザイナー」となった河野隼也さん。彼は今、京都一条の大将軍商店街で妖怪をテーマに「妖怪意匠家」として町おこしをしている。

「大学入学の動機は、デザインの勉強はもちろん、もともと好きだった『妖怪』をテーマに文化研究もできると思ったから」と答えてくれた。ゼミはヘリテージツーリズムデザインを専攻。その中で「妖怪」は自分の生まれ育った京都の大切な文化であり、そこに人々の考え方や自然への畏敬に念が秘められているものだと再認識した。そんな思いから、卒業制作では京都文化の中に垣間見える妖怪の伝説と歴史的解析論文をまとめた絵物語「魔界遺産」を発表。さらに研究をしたいと同大学院へ進学した。

そんな時、京都の一条商店街で「妖怪をテーマに商店街の活性をしている」という話を聞き、取材に訪れた。商店街の方の話によると、その地域では昔「付喪神（つくもがみ）」という古道具の妖怪たちが百鬼夜行をしていたという。そして、それを再現したいという想いを聞いた。興味を持った河野さんは文献を調べ、妖怪の衣装を提案。それが好評で「妖怪パレード」と銘打ったイベントを開催する運びとなった。すると本人も商店街の人たちも驚くほどの大盛況！　3回の開催を重ね、今では商店街の名物行事になりつつある。

「最近では商店街の魅力をより多くの人に伝えたいと思い、ホームページの制作やグッズデザインも手掛けています。『妖怪』という土着の題材の魅力をひきだして『娯楽性を強調してプレゼンテーション』することにより、その地域特有の題材を生かした観光のスタイルを確立したいと考えています」と話す。イベントからものづくりに至るまで、まさに観光デザイナーといえる河野さんの活躍に今後も期待したい。

妖怪パレードの様子。テレビや新聞などのマスコミにも取り上げられ、毎年参加者も増え続けている。

編集：阿藤夕可子

観光デザインは、多彩な能力を身につけ、現場に強い人材を養成

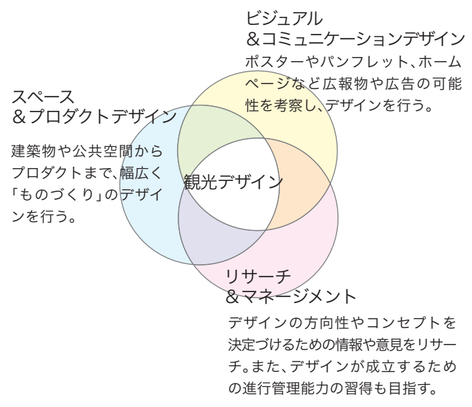
紹介してきたように、観光デザイン学科を卒業した先輩たちは、それぞれに自分の個性を生かし様々な業界に進んでいる。共通していえることは、社会の中で「即戦力」として活躍していることである。これは、観光デザイン学科が目指す8つの能力を身につけるために、在学中に学びと実践をくり返すことで得た「経験」が生きている。いわば学生時代に、模擬的に社会経験ができる環境があるといえよう。

もちろん、はじめは何もわからないところからのスタートで不安もあるだろうが、自分の興味を大切にし、時には先生や友達の手を借りながら、自分にしかなれない「観光デザイナー」になってほしい。

□習得を目指す能力

プレゼンテーション能力	自分の作品を効果的に伝える術、人を説得するための能力。
コミュニケーション能力	会話から他者の気持ちやニーズを引き出し、自分の考えを正確に伝える能力。
プロデュース能力	客観的な立場からものごとを判断し、プロジェクトを成功に導く力。
企画力	社会が何を求めているかを知り、プランを形成する。
創造力	オリジナルな考え、真似できない作品、自分だけの表現を確立する。
調査・分析力	資料や現地調査を行って、テーマを取り巻く全体像を把握する。
行動力	実践するためにすぐ行動できる。機敏なフットワーク。
デザイン能力	「デザイン」に関わる多彩な力を横断的な学びから習得。

□観光デザイン学科　分野構成



ニーズを聞き出し、その想いをかたちにする力を発揮しています。

3期生
エコツーリズム
デザインゼミ専攻
（現：真板ゼミ）

■ 名前
高木優子

■ 出身地
京都府京都市

■観光デザイン学科の志望動機
「ものづくりがしたい！」と思ったから。

■ こんな仕事をしています
旅行会社で営業の仕事

「ものづくり」をしたくて入学したのですが、ゼミはいつもハイテンションで元気な先生の魅力に惹かれて、エコツーリズムデザインを専攻。ゼミでは、自分の考えをもとに、いかに社会的な意義を持ちながら企画を立てるか、プレゼンするか試行錯誤しながら学びました。卒業制作では、大台ケ原を舞台にそこに棲息する生き物達のパズルを制作しました。高校まで特に絵の勉強をしていたわけではなかったので、大学に入った時は、デザインの基礎演習などの授業についていけるか不安でしたが、友達や先生から刺激を受け、最後には自分の思うようなものづくりができました。

今は、旅行会社で営業の仕事をしています。お客さまにニーズをお聞きし、具体的な旅行の提案をします。旅行業務を一貫して行う営業の仕事では、観光デザイン学科で身に付けたリサーチ、企画立案、プレゼン、企画を形にする力など、あらゆることが役立っています。自分の提案がお客さまのニーズに合い、採用されるとすごくうれしいし、おまけにその旅行に添乗することができるので、とてもやりがいを感じています。

卒業制作「大台に見る自然空間」。自然破壊が進む大台ケ原を守る人達の活動に感動し、この作品を媒介に大台ケ原の現状や魅力を多くの人に知ってもらおうと制作。

「人の想い」を伝えるための プロデュース力を 身に付けた

1期生
エコツーリズム
デザインゼミ専攻
（現：真板ゼミ）

■名前
阿藤夕可子

■出身地
大阪府大阪市

■観光デザイン学科の志望動機
絵やデザインが好きでどうしても芸術系大学にいきたかった。

■こんな仕事をしています
制作会社で地域おこしや観光関連の印刷物のディレクションや編集

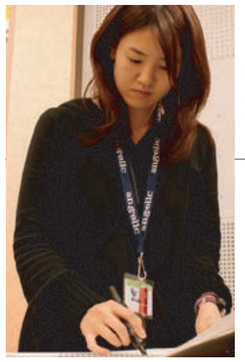
もともと旅行が好きだったので、「旅」が勉強に繋がっている観光デザインの授業はどれも楽しく、学科の特色ともいえるメニューいっぱいの海外研修やフィールドワークにもできるだけ参加しました。その中で、いくつかのエコツアーにも参加しました。

エコツアーとは、自然の中を観光するとき、地元のガイドさんの案内で進むツアーです。ガイドさんはインタープリターとも呼ばれ、その意味は「通訳者」。西表島やマレーシアのボルネオ島に住むガイドさんの話を聞くと、そこにある自然が大好きな方ばかりで、まさに森の声の通訳者でした。そしてその自然環境のことを知ってもらいながら守っていきたいという姿勢に感動しました。

今は、広報物を制作する会社で、地域おこしのお手伝いをしています。淡路島の観光資源となる「宝」を探し、島の魅力を島外へ発信しようというプロジェクト『淡路島まるごとミュージアム』を担当。地元の人たちと二人三脚でツアーやイベントの企画から実施をプロデュースする仕事をしています。淡路島の人たちの気持ちや、島の魅力をもっとより多くの人に届けられるようがんばっています。

卒業制作は京都の美山町で活躍するガイドさん自身を紹介する「エコツアーガイド・ガイドブック」を制作。自然はもちろん、その中を案内してくれるガイドさん自身も「宝」であると考えた。

イベントの奥深さを知り、 やりがいを持って社会へ



2期生
イベント
デザインゼミ専攻
（現：桑田ゼミ）

■名前
瀧井美貴

■出身地
大阪府茨木市

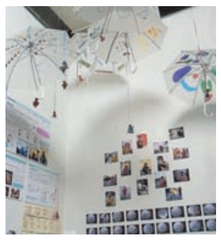
■観光デザイン学科の志望動機
絵を描き続けながら、新たにいろんなことに挑戦できそうだと思った。

■こんな仕事をしています
テレビの制作会社でアシスタントディレクター・フロアディレクター

「人に喜んでもらえること」にやりがいを感じる性格で、それが活かせそうなイベントデザインを専攻。

古川町商店街での活性化イベントを企画から実施までのプロデュースをしました。その中で人の意見を聞き、内容をまとめて企画を練り上げ、自分の意見をプレゼンしていく。その作業を繰り返していくことで、より意義のあるイベントへとつくりあげていくことができることを肌で知りました。また、大きなイベントになると、達成すべき一つの目的に向かっていく「チームワーク」が必要不可欠であると実感。観光デザイン学科では、机上の空論で終わらないイベントデザインの本質をたくさん学ぶことができました。

仕事では現在、テレビ番組の制作現場でアシスタントディレクター、フロアディレクターをしています。イベントと番組制作は似ているところがあり、番組の企画内容を理解し、「伝えたいこと」を念頭におきながら、情報リサーチ、アポ取り、小道具準備をして、ロケや本番に挑みます。また、チームの中で自分に与えられた役割をしっかりこなすことも大学で得た貴重な経験であり、大切にしています。



卒業制作では『雨の日の子供の遊び〜雨の日を好きになろう〜』というテーマで雨の日の楽しみ方を企画提案。市の施設に企画を持ち込み、実際にイベントを実施。その時に子どもたちと制作した、雨具の作品と論文を展示発表した。

「宝さがし」を通して 地域をみると 新たな魅力がみえてくる

3期生
エコツーリズム
デザインゼミ専攻
（現：真板ゼミ）

■名前
松本哲寛

■出身地
石川県金沢市

■観光デザイン学科の志望動機
イラストを勉強したかった。

■こんな仕事をしています
企画出版会社で観光の情報雑誌やフリーペーパーをデザイン

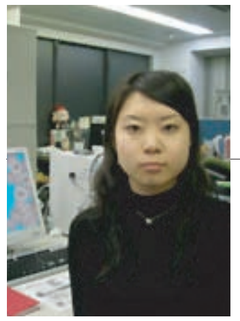
高校まではバスケットボール一筋でしたが、大学では得意だったイラストを勉強したいと思い入学。「自然」も好きだったので、西表島やボルネオ島など、たくさんのフィールドワークに参加。その中で観光デザインの基本である「宝さがし」という考え方を知りました。

「宝さがし」は、地域に埋もれている宝の原石を探して、それを磨いていけば、その宝はその地域に住む人の誇りになるという考え方です。自然環境や歴史・文化、そこに住む人など、地域の根本を見つめ直すことから「宝」を見つけていきます。「観光」とは、本来その地域の誇れる「光」を、地域の人が自慢として『観せて』いくべきものだという考え方に感銘を受けました。

今はエディトリアルデザイナーとして企画や誌面デザインをしています。地域の紹介や観光関連雑誌などの企画に携わる際には「宝さがし」の考えを大切にして、「たんなる観光の対象」という紹介ではなく、地域の誇りを住む人々に代わって表現し、伝えるような視点を持つよう心掛けています。観光デザインで企画とデザインの両方を学んだことが、観光デザイナーとして自信につながっています。

卒業制作『花と風〜雨の島の夏物語り〜』では、屋久島と大台ケ原でリサーチした森の営みを、二人の登場人物がわかりやすく解説する映像作品を制作。

イベントの一連の流れを 実践したことが、 仕事の役に立っている



3期生
イベント
デザインゼミ専攻
（現：桑田ゼミ）

■名前
松田莉那

■出身地
石川県金沢市

■観光デザイン学科の志望動機
イベントデザインコースがあったので。

■こんな仕事をしています
各種イベント制作・企画・演出・運営のアシスタントディレクター

大学では、「イベント」とは何かの目的を達成するための手段であると学びました。例えば、私が実際に関わった京都の北野商店街でのイベント『北野のひかり』では、「商店街の活性」が目的でした。そこで、子どもたちが自分たちの住んでいる地域を知り、誇りを持つことが地域活性につながると考えました。

まずは子どもたちに、商店街で職場体験をしてもらいました。次にその時の気持ちやお店の人の笑顔、町の様子を描き、その絵で提灯を制作。地域の宝＝「光」と考えました。最後は、照明を展示し、地域の宝を発表するイベントを実施。たくさんの北野の宝が集まり、京都テレビでも紹介されました。イベントの本番だけでなく、準備段階のプロセスにも意味を持たせたのがよかったと思います。

現在、仕事ではプロバスケットボールの試合やファッションショーの演出をしています。全体の運営マニュアルや台本を制作し、本番の進行もしています。大学時代に培ったイベントの考え方をベースに、自分が携わったイベントで、お客様に笑顔で楽しんでいただけるようなエンターテイメント性の高いイベント作りを目指しています。

商店街活性イベント『北野のひかり』。小学校に出向き、描き方のコツもアドバイス。商店街の会館で約50個の「北野の宝もの」を提灯として展示。